



2017.8.4

ついに9月から公募がスタート！ 科研費シーズン突入！

Phase1 ▶ 科研費特別講演会

9.27 Wed. 科研費改革2018の狙いと将来展望 一知のブレークスルーを目指してー

2018年度科研費は大きく改革されますが、仲先生は独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員として、新たな審査体制や研究種目の構築など、公募・審査制度全般の制度設計に深く関与されました。今回の特別講演では、科研費改革2018の狙いや将来展望について、各分野の研究者がどのように新制度の趣旨を理解し、申請戦略をデザインするべきなのかについて、仲先生よりお話をいただきます。なお特別講演終了後は研究部野口義文事務部長による特別インタビュー、質疑応答も予定されています。

■ 講演者：総合心理学部教授 仲真紀子先生
(独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター・社会科学専門調査班・主任研究員)

日時 **9月27日 [水]** 16:00-17:55
会場 [OIC] B棟 4階 研究会室1 **メイン会場** [BKC] コアステーション2階 大会議室
[衣笠] 至徳館 3階 304東会議室 [朱雀] 6階 602会議室

同日 18:00～19:30、同会場にて引き続き学内公募説明会を開催します。



仲(なか)先生略歴/福岡県生まれ。研究分野は、認知心理学、発達心理学、法と心理学。1979年お茶の水女子大学文教育学部卒業(心理学専攻)。1981年同大学大学院人文科学研究科修士課程修了(心理学専攻)。1984年同大学大学院博士課程人間文化研究科単位取得退学(人間発達学専攻)。1987年同大学より学術博士。千葉大学教育学部講師、助教授、デューク大学客員研究員、1999年東京都立大学人文学部助教授(心理学専攻)、2003年北海道大学大学院文学研究科人間システム科学専攻心理システム科学講座教授を経て、本年4月本大学総合心理学部教授着任。これまで数多くの科研費を保有、JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)のRISTEX(社会技術開発研究センター)の研究プロジェクト代表などの大型公的研究費による研究推進の実績があり、2015年度より独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センターの主任研究員に就任(社会科学専門調査班統轄)。

Phase2 ▶ 学内公募説明会

リサーチオフィスより新しい審査システムへの移行、研究種目の見直し、応募書類(研究計画調書)の変更内容を中心に申請手続き方法や学内スケジュールなどを丁寧にご説明します(事前参加申込不要)。

日本語1回目	日本語2回目	日本語3回目
9月27日 [水] 18:00-19:30 [OIC] B棟 4階 研究会室1 メイン会場 [衣笠] 至徳館 3階 304東会議室 [BKC] コアステーション2階 大会議室 [朱雀] 6階 602会議室	9月28日 [木] 18:00-19:30 [OIC] B棟 4階 研究会室1 メイン会場 [衣笠] 至徳館 3階 304東会議室 [BKC] コアステーション2階 大会議室 [朱雀] 地階 B01会議室	9月29日 [金] 18:00-19:30 [衣笠] 至徳館 3階 304東会議室 メイン会場 [OIC] A棟 1階 AS113会議室 [朱雀] 地階 B01会議室

English
10月3日 [火] 18:00-19:30 [衣笠] 至徳館 3階 304東会議室 メイン会場 [BKC] コアステーション3階 第4会議室 [OIC] B棟 4階 研究会室1 [朱雀] 地階 B01会議室

Kinugasa: Conference Room 304 East, 3F, Shitokukan Hall
BKC: Meeting Room No.4, 3F, Core Station
OIC: Meeting Room No.1, 4F, Building B
Suzaku: Meeting Room B01, B1

- 変更内容の多い今秋の公募においては、本大学で初めて科研費を申請される方はもちろん、これまで科研費の申請経験が豊富な方も積極的にご参加ください。
- 応募要件が変更になる「若手研究(B)」の申請を希望される方は、特にご参加ください(事前必要手続き(本チラシ裏面参照)も解説します)。
- 説明会当日は9月下旬より事前配付する「平成30年度科学研究費助成事業—科研費—公募・申請参考資料」をご持参ください。
- 説明会終了後は、各リサーチオフィスによる個別相談も承ります。

「若手研究 (A) (B)」が変わります！！

若手研究 (A)

新規募集停止 (基盤研究種目等への統合)

若手研究 (B)

「若手研究」に改称され、
応募要件も従来の「年齢 (39歳以下)」から
「博士の学位取得後の年数 (8年未満)」に変更されます

(経過措置として、39歳以下の博士の学位未取得者は応募可能です。また、同一研究者の受給回数を2回までとする制限は、今回の見直し以前の「若手研究 (S・A・B)」を受給した回数を通算されます。)

「若手研究」の応募要件 *年齢は2018年4月1日現在

	博士の学位取得状況			
	2018年4月1日現在		応募時	
	8年未満 (★)	8年以上	未取得	取得見込み
40歳以上	応募可	応募不可	応募不可	応募可 (条件付き (※))
39歳以下	応募可	応募不可	応募可 (経過措置)	応募可 (経過措置)

(★) 博士の学位取得後に取得した育児休業等 (産前・産後の休暇、育児休業) の期間を考慮 (取得期間の和を年度単位に繰り上げて、博士の学位取得後の年数から除く) すると、博士の学位取得後8年未満となる場合も該当します

(※) 2018年4月1日までに博士の学位を取得できなかった場合は、採択されても交付申請を辞退しなければいけません

博士の学位の定義



「若手研究」の応募要件における博士とは、学位としての博士です。そのため、論文博士や外国における博士相当の学位取得 (Ph.D.等) を含みますが、学位ではない名誉称号としての博士 (例、名誉博士) を以って応募はできません。また、専門職大学院の課程は、博士課程には含まれませんので、当該学位を以って応募することはできません。

POINT!!

上記表で
応募可の
皆さんへ

〈締切〉

10/10 (火)

1 研究部HP*に掲載している『「若手研究」応募要件に確認に係る自己チェックシート』を用いて、改めて該当する応募要件をご確認ください。

2 このうち、博士の学位を取得後8年未満の応募希望者は、大学側で博士の学位取得日をe-Radにあらかじめ登録する必要のあるため、自己チェックシートの裏面 (「若手研究」応募に係る博士学位取得日届出書) の必要事項を記入し、「学位記 (写)」と併せてリサーチオフィスまでご提出ください (メール提出も可)。なお、「学位記 (写)」は、紙媒体に限らず写真データの提出でも差し支えありません。

*『「若手研究」応募要件に確認に係る自己チェックシート』

<http://www.ritsumeikan.ac.jp/file.jsp?id=346662>

所属キャンパス別の
各リサーチオフィス
科研費申請担当
問い合わせ先

衣笠キャンパス・朱雀キャンパス

衣笠リサーチオフィス (修学館2階)
京都市北区等持院北町56-1
柚木、西田、中村
Tel: 075-465-8224
mail: shinseik@st.ritsumeikan.ac.jp

びわこ・くさつキャンパス

BKCリサーチオフィス (防災システムリサーチセンター3階)
滋賀県草津市野路東1丁目1-1
武田、荒井、和田
Tel: 077-561-2802
mail: b-kaken@st.ritsumeikan.ac.jp

大阪いばらきキャンパス

OICリサーチオフィス (B棟5階)
大阪府茨木市岩倉町2-150
野村、岡本、張、虎谷
Tel: 072-665-2570
mail: oicro@st.ritsumeikan.ac.jp

2018年度科研費NEWSラインナップ

「特別号」7月4日発行…科研費改革概要、初めて科研費に応募する流れとポイント紹介など
「第1号」7月10日発行…科研費改革続報 (応募書類の様式変更)、7月開催の科研費支援企画紹介など
「第2号」8月4日発行…9月開催の科研費支援企画紹介、「若手研究」応募要件変更紹介など
「第3号」9月中旬発行予定…公募要領からみる主な変更点、学内申請手続き、スケジュール紹介など【予定】

